

～輝きの子育て～

二つの習慣化

4月に入園された方々、おめでとうございます。

この「輝きの子育て」は、園長の母親（元園長片野英子）と父親（元サラリーマン片野英司）が1か月交替で執筆しております。

子育ての表題にとらわれず、その時々感じた事柄（政治、経済、社会問題等）について、考え、思いを述べています。中には見解の相違があるでしょうがご容赦をお願いします。

今月は二つ「習慣化」について書きます。習慣化が必要なことは数多くあります。子供の習慣化の中で大切な二つのことに絞って記します。

一つは「早寝、早起き、朝ご飯」です。

今一つは「あいさつ、返事、履き物」です。

「早寝、早起き、朝ごはん」は子供の生活リズムの向上を図ることを目的として文部科学省が推進しています。特に「朝ごはん」は脳にエネルギー源のブドウ糖を摂取することで、午前中の活動を助けます。最低でも「朝ごはん」は習慣化して下さい。この三つの習慣化は、毎日の遊びや学びに、いきいきと集中する基礎となるものです。保育園でも折にふれ、この習慣化の話は出て来ます。

次に、「あいさつ、返事、履き物」の習慣化です。

森信三氏（1896－1992年、教育者、哲学者、国民教育の師と言われた人）の提言です。

朝は、必ず、親に挨拶する子供にすることで円滑な対人関係を築く基本を身につけさせます。親に呼ばれたら「ハイ」とハッキリ返事のできる子供にすることで、素直な心と行動力を身につけさせます。履物を脱いだら、必ず、揃え、席を立ったら必ず椅子を入れる子供にすることで、行動のけじめのある心を育てます。森信三氏は、この三つが出来れば、幼児教育の躰は終わりとまで言っています。

以上、大きな二つの躰は、親が子供と一緒にやることで、家族の習慣にすることに意義があります。

子供がこの習慣を身につけるには、時間が掛かります。根気よく続けることで、家族の絆を深めていくと良いと思います。

将来、子供が大きくなった時に大きな財産になります。

片野 英司